

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

Itoh K, Kitakoji H. Effects of acupuncture to treat fibromyalgia: a preliminary randomised controlled trial. *Chinese Medicine* 2010; 5: 11. CENTRAL ID: CN-00888989, PMID: 20331844

1. 目的

線維筋痛症に対する鍼治療の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治国際医療大学、京都、日本

4. 参加者

線維筋痛症を有する 40 歳以上の外来患者 16 名 (男性 3 名、女性 13 名)

5. 介入

Arm 1: A 群 (対照群) 8 名 (平均年齢 45.7±15.2 歳) 2 名脱落。試験開始から 5 週間後に治療を開始し、毎週 1 回、計 5 回治療。1 回の治療につき、鍼通電 15 分、トリガーポイント鍼治療 15 分。鍼通電は、前腕と下腿にステンレス製ディスクポーダブル鍼 (0.2×40mm、セイリン社製) を 5-20mm の深度に刺入し、4Hz で行った。トリガーポイント鍼治療は、ステンレス製ディスクポーダブル鍼 (0.2×40mm、セイリン社製) を、トリガーポイントに 10-20mm 刺入し、雀啄を施し 10 分間置鍼した。

Arm 2: B 群 (長期鍼治療群) 8 名 (平均年齢 47.3±13.3 歳) 1 名脱落。試験開始直後から毎週 1 回、計 10 回治療。A 群と同様の施術を行った。

6. 主なアウトカム評価項目

痛みに対する Visual analogue scale (VAS)、線維筋痛症質問票 (fibromyalgia impact questionnaire: FIQ)。

7. 主な結果

VAS より、長期鍼治療群が対照群と比較して 5 週目は有意に改善したが (P=0.022)、10 週目には有意差がみられなかった (P=0.252)。FIQ も、長期鍼治療群が対照群と比較して 5 週目は有意に改善したが (P=0.026)、10 週目には有意差がみられなかった (P=0.086)。

8. 結論

線維筋痛症に対する鍼治療は長期的な効果がみられる。

9. 鍼灸医学的言及

なし。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

二重盲検 RCT によって線維筋痛症に対する鍼の効果の評価しようとする、意義深い研究である。サンプルサイズが少ない予備調査にもかかわらず、ある程度の効果が示唆された。本研究では症例数を増やしたうえで、予備調査では言及されていない安全性などについても明らかにすることで、さらなる成果が示されることを期待したい。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19